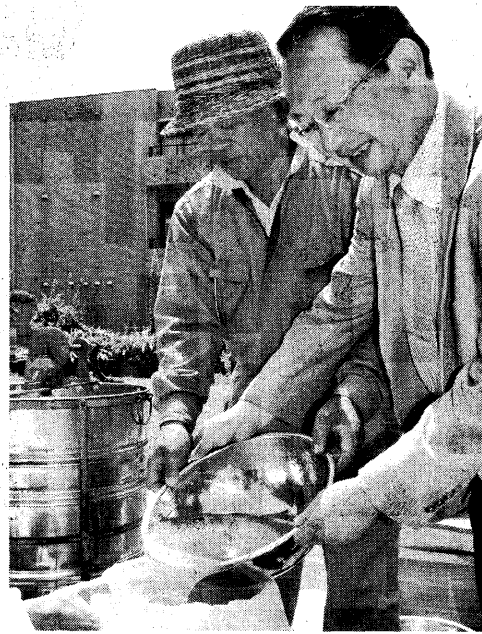


エキウムの蜂蜜を手にする土橋教授（右、甲子園短大）



「エキウム蜂蜜」上々の味

甲子園短大、30キロ搾り出す

甲子園短大（西宮市瓦林町）で今春から取り組む高山植物「エキウム」による蜂蜜作りで、12日、蜂蜜の採集が行われ、30キロの蜜が搾り出された。エキウムの蜂蜜は国内初といい、甘いのにすっきりとした味わいで、色も澄んだ。予想以上Vの出来に、関係者から称賛の声が上がった。

土橋豊教授（園芸学）は2005年以降、同短大園芸実験場でエキウム・カンディカンス（高さ約2尺）など数種類のエキウムを栽

培しており、花を付けた07年頃に、蜂が周囲を飛ぶのを見て蜂蜜作りを発案。エキウム・カンディカンスの近くに今年4月、西洋蜜蜂4万匹が入った巣箱9箱を置いた。

5月末に試験採集したところ、出来は上々だったといい、この日の本格採集では養蜂家らの協力を得て、巣箱から巣枠を取り出して機械で蜜を分離した。糖度は83%と高く、試験採集分を使ったロールケーキを試食した来場者は「すっとした舌触り」「後味がいい」

などと感想を寄せた。

すべての巣箱の蜂蜜を搾ると約100キロにもなる。エキウムの開花時期が長いことから「新たな蜜源になる」と期待する声も上がった。蜂蜜は研究などに使うほか、10月の大学祭で販売する予定。土橋教授は「年月をかけて栽培したものが形になって、とてもうれし。将来、エキウムの蜂蜜が西宮の特産品になってほしい」と話した。